

第2章 地域循環共生圏形成に向けた取り組み

1. 検討の視点

本検討では、「1. 課題・機会」、「2. 事業モデル」、「3. 事業戦略」、「4. 資金調達」、「5. 人材」の5つの視点で先進事例の分析を行った。

検討の視点	概要
1. 課題・機会	<ul style="list-style-type: none">✓ 現状の地域/企業課題や地域資源の把握・発掘するために、着目すべき視点について紹介する✓ 現状の地域/企業課題や地域資源を把握・発掘するために、効果的なアクションを紹介する
2. 事業モデル	<ul style="list-style-type: none">✓ 上記の課題・機会を捉えたうえで立ち上げることができる地域循環共生圏ビジネスのうち、典型的なものを、ビジネスの「型」として紹介する。✓ ①顧客、②商品・サービス、③提供体制・パートナーについて紹介する✓ 特に③提供体制・パートナーについては、見つけ方・巻き込み方の工夫についても紹介する
3. 事業戦略	<ul style="list-style-type: none">✓ 事業モデルの優位性・持続可能性を実現するための工夫例を紹介する
4. 資金調達	<ul style="list-style-type: none">✓ 主な資金調達方法について、比較する際の視点について紹介する✓ 関係者へのアプローチ・交渉など、資金調達にあたり必要なアクションや留意すべき点を紹介する
5. 人材	<ul style="list-style-type: none">✓ 事業の実施に必要な人材を確保するために、人材採用の方法や採用の視点例について紹介する✓ 採用した人材の育成やビジョンの共有に関する手法や工夫例について紹介する

図 8 検討の視点

「ローカルSDGs（地域循環共生圏）ビジネス」とは、『環境を含むそれぞれの地域課題を解決し、自立分散型の社会づくりにつながる事業※』と定義し、加えて実態に応じて以下①または②（①②両方も可）が満たされていることを条件とする。

- ① 地域資源を活用し、地域内で資金、エネルギーや食などが循環している、または地域内へ資金が流入する仕組みが構築されている
- ② 地域間で補完し支え合いの関係が構築できている

※「事業」とは、収益化を目指すビジネスだけでなく、非収益ビジネスも含むものとする。

※事業立ち上げのきっかけが、「地域課題」ではなく「企業課題（新収益源確立やコスト削減など）」の解決であるものを含む

具体的には、先進事例について、以下のような項目についてヒアリングを実施し、その結果をとりまとめた。

表 1 主なヒアリング項目

項目	ヒアリング要点	
【1】 課題・機会	背景	<ul style="list-style-type: none"> 事業化を目指したきっかけは？ 検討のアプローチは？（地域課題起点か、もしくはビジョン・ビジネス視点から、どのよなアプローチで構想⇒計画づくりに進んだか？）
	地域課題・資源	<ul style="list-style-type: none"> どのような地域課題に着目した？どうやって地域課題を認識した？その地域課題に着目した理由は？ どのような地域資源を活用した？どうやって地域資源の価値を発見/認識した？その地域資源に着目した理由は？
【2】 事業モデル	事業の経緯・目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 事業化に向けてどういった段階を踏んだ？どういった変曲点があった？それをどう乗り越えた？ なにを実現したい？今後の展望は？
	顧客/商品・サービス	<ul style="list-style-type: none"> 誰をターゲットとした？誰のニーズに応えた？ どのようなニーズに応える商品・サービスを提供している？その価値は？特徴は？ イノベティブな点は？
	提供体制/パートナー	<ul style="list-style-type: none"> どういった事業体で事業を行っている？そうした形態を選定した理由は？どうやってそれを合意形成した？ 中核になっているのはどういったプレイヤー？ どのようなパートナーと連携している？役割分担は？どうやって発見した？どのように巻き込んだ？
【3】 事業戦略	事業モデルの優位性・持続性を担保する方策	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事業の中で、なにを収益源にする？ 既存ビジネスや競合との差別化ポイントは？より高い付加価値の商品・サービスとする工夫は？より効率的なオペレーションを実施するための工夫は？ 取り組みを持続可能なものにするために何を実施している？ 地域に収益を落とす工夫は？（収入、コスト、利益、投資回収はどのような資金循環になっているか？）
【4】 資金調達	手段/選定の視点	<ul style="list-style-type: none"> どうやって/どこから資金調達した？その手段を選んだ理由は？各資金調達手段を比較した視点は何か？
	工夫やポイント	<ul style="list-style-type: none"> 調達成功のために施した工夫は？調達前に実施した準備は？
【5】 人材	手段/選定の視点	<ul style="list-style-type: none"> どのような人材が必要？どういった人材・立場・職種の人がキーマンであった？ どうやって採用した？（面接方法は？）採用の際の視点は？どのように人材配置した？人材育成はどんな機会・仕組み作りをしてる？ ノウハウ蓄積や継承の仕組みは？どうやってVision/Purposeを関係者へ浸透させる？
	工夫やポイント	<ul style="list-style-type: none"> 採用や育成の際に意識した点は？関係者のコミュニケーション促進の工夫は？
その他	情報	<ul style="list-style-type: none"> どうやって必要な情報を得た？どのような情報が必要？ 活用価値のある外部情報源および社外機能は？
	阻害要因・支援策	<ul style="list-style-type: none"> 事業を進めるうえで、何がボトルネックとなった？どのような点に最も苦労した？ 地域資源（ヒト・カネなど）をできるだけ多く活用・循環させるにあたって、障壁となるものは何か？ 克服のために必要だと考えられる支援策は？逆に、有効であった支援策はあるか？国や自治体からはどのような支援があると良い？

II. 地域課題と導入されるソリューション

様々な地域が問題として認識していること、目指す姿、それを実現するために導入するソリューションを、後述する取り組み事例の分析結果をもとに、『全体像』としてとりまとめた。

	地域課題（問題）	目指す姿	ソリューション
視点① 地域資源	活用されない地域資源 <ul style="list-style-type: none"> エネルギーを化石燃料に依存、大量のCO2を排出する 資源を活用できず遊休資源となっている 廃プラスチック・廃食品が多く発生・廃棄されている 	地域資源有効利用/循環 <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物・未活用資源に新たな価値を創出、資源として有効活用される 地域の再生可能エネルギー活用 	都市から地域への資金流入・交流促進 <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を用いた高付加価値商品 廃棄物を再資源化した日用品、規格外野菜を活用した加工品、地域農林水産物由来の化粧品 等 グリーンツーリズム 規格外農産物のピュアレストラン、農園レストラン・ショップ、古民家宿泊施設 等 マッチングサービス 地域商社・アンテナショップ、生産者・都市レストラン流通プラットフォーム、自治体-企業マッチング 等 循環型農林水産業 たい肥を活かした循環型農業、耕作放棄地を活用した畜産業、地域資源を融通する水産業 等
	自然環境・景観への悪影響 <ul style="list-style-type: none"> 農業・化学肥料の使用が生態系へ影響を与えている 自動車排ガスが発生している 	自然との共生 <ul style="list-style-type: none"> 自然資源・生態系が保全される 地域独自の歴史・文化が継承される 	地域内の資金循環・交流促進 <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型金融・地域通貨 地域通貨アプリ、社会的投資、地方創生ファンド 等 地域内交流の場・機会提供 地域住民のコミュニティベース、賑わいの場づくり、見守りサービス 等
	人材・資金・産業の流出・衰退 <ul style="list-style-type: none"> 地域や企業の担い手がいない 事業者の所得が少ない/安定しない 高齢者・自家用車非保有者の移動手段不足が深刻化 	活気ある地域づくり <ul style="list-style-type: none"> 地域人口の増加 域内資金循環、雇用の創出 生産性向上・事業領域の拡大・ブランド力向上等による事業者所得向上 	サービス維持のための最適化・効率化 <ul style="list-style-type: none"> 無人化・最適化 自動運転、ドローンによる無人輸送、配車自動化・ルート最適化、デマンド交通、耕作放棄地発見 等 需給のハンドル化 カーシェア・ライドシェア、共同輸送 等 サービスのマルチタスク化・可動産化 貨客混載、移動販売・診療、小さな拠点 等 インフラ遠隔監視制御 水門・陸開閉遠隔監視制御 等
視点② 基盤サービス	不便な/衰退する生活交通 <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の接続が悪く、タクシー事業者が廃業するなど、移動手段が不足している 高齢者・自家用車非保有者の移動手段不足が深刻化 	便利・快適で持続可能な生活交通 <ul style="list-style-type: none"> ドアtoドアでの移動手段、二次交通の十分な確保、各種生活サービスとの連携 	地域資源を用いたインフラ供給 <ul style="list-style-type: none"> 地域資源による域内エネルギー供給 廃食油のVDF化、木質チップによるバイオマス発電、太陽光・小水力・バイオマス地域電力 等 地域電力を活かした電動モビリティ EVバス、グリーンスローモビリティ、電動自転車、LRT 等 蓄電池利用非常用電源 非常用リユース蓄電池、太陽光発電+蓄電池LED電灯、EV充電器非常用電源利用 等 地域内未活用資源によるグリーンインフラ 木材加工端材を利用した土壌改良材、排水汚泥を活用した保水性ブロック、緑化システム 等
	希薄化する地域コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> 地域内のコミュニケーションが少ない 都市・農村間の交流人口が少なく、相互理解が低い 	地域内・地域間の活発な交流 <ul style="list-style-type: none"> 地域内・地域間における交流人口拡大、コミュニケーション活性化 	
	不十分な災害への備え <ul style="list-style-type: none"> 温暖化や猛暑、大型台風など災害の被害が深刻化 災害時のインフラ供給 	防災・減災・災害時機能維持 <ul style="list-style-type: none"> 耐震性の向上や水害の緩和 非常用電源の確保 作業員の安全性担保 	

図 9 地域循環共生圏における地域課題・目指す姿・ソリューション